

大橋 靖先生を偲んで

新潟大学顎顔面口腔外科学分野教授 高木 律 男

故・大橋 靖先生とは、大橋先生が新潟大学歯学部サッカー部で後援会長をされていたころからのお付き合いで、部員であった私は後援会からの寄附金をいただくのに、「後援会長の一言」をいただきに何度か教授室に伺っていました。また、サッカー部の先輩が第二口腔外科（現・顎顔面口腔外科）にいたことと合わせて、口腔外科の道に進むきっかけとなりました。とは言え、入局後の大橋先生の態度は、サッカー部はサッカー部、口腔外科は口腔外科ということで、当然ですが、誰にも厳しく、また患者さんを思っただけの指導をしてくださいました。臨床における診断の重要性、しっかりと症例を診ることから出る疑問が研究課題となること、などなど思い起こせば、今の自分の全てにしみこんでいると感じます。特に、ご略歴の表に示します通り、1982年にご家族でヨーロッパに留学され、帰国後に始められた「Hotz床併用二段階口蓋形成法」は、現在も教室で引継ぎ、「世代を越えて」の口蓋裂患者さんに対する新潟大学医歯学総合病院のチーム医療として誇ることのできる体制となっています。

本年は4月20日で88歳を迎えられたということで、令和に移行した5月3日に療養中の病院でお会いした時には、ご指導いただいた大学時代と変わらぬ鋭い目つきで迎えてくださいました。戦後

の昭和から口腔外科の創世記を生き抜き、長年にわたる教授生活、そして6年にもおよぶ闘病生活はさぞや大変であったと思います。最後の6年は先生が大変な中でも頑張っておられることが、そして奥様をはじめご家族が見守ってくださったことが、すべて私の生きる張りでもありました。亡くなられた5月21日は、まさに「巨星落つ」の気持ちで訃報をお聞きしました。

大橋先生が亡くなられた翌週5月29日から新潟市朱鷺メッセにおいて第43回日本口蓋裂学会を主催させていただくことになっており、無事終了して大橋先生にご報告する予定でした。残念でありませんが、大会における理事会、代議員会、総会において、それぞれ大橋先生への感謝の気持ちを込めて、黙祷が行われました。

大橋先生、先生からいただいた多くの思い出、教訓はいつまでも大切に残し引き継ぎたいと思います。誰もが身がすくむような存在であった新潟大学の教授時代から、退職後のご活躍のご様子を見やすいように表にしました。お酒を飲むのが好きだった先生を思い出しながら、表や写真を見ながら仲間たちと語り合う機会になればと思います。長い間、本当にありがとうございました。心より御冥福をお祈りいたします。合掌。

大橋 靖先生のご略歴

西暦(年)	元号(年)	出来事
1958	昭和33	東京医科歯科大学歯学部卒業、第一口腔外科入局
1965	昭和40	歯学博士（東京医科歯科大学）
1969	昭和44	岩手医科大学歯学部教授（口腔外科学第二講座）
1973	昭和48	新潟大学歯学部教授（口腔外科学第二講座）
1982	昭和57	文部省在外研究員（西ドイツ、オーストリア、スイス、アメリカ） Hotz床併用二段階口蓋形成法
1983	昭和58	第7回日本口蓋裂学会 大会長 （その他、退職までに日本口腔腫瘍学会、日本口腔科学会などの大会長）
1985 －1989	昭和60 －平成2	新潟大学歯学部附属病院長（第9代）
1995 －1996	平成7 －平成8	日本口蓋裂学会理事長（第5代）
1995	平成7	第48回 新潟日報賞（科学部門）受賞
1998	平成10	新潟大学退官、新潟大学名誉教授
2001 －2011	平成13 －平成23	新潟医療福祉大学・医療技術学部言語聴覚学科教授（退職後：新潟医療福祉大 学名誉教授：岩手医科大学・新潟大学・新潟医療福祉大学の教授歴39年）
2012	平成24	叙勲：瑞宝中綬章
2019	令和元	5月21日ご逝去、叙位・叙勲 位階「正四位」

右：瑞宝中綬章 叙勲祝い

2012年7月

下：国際口蓋裂学会（オランダ）

2013年5月（受傷直前）

右下：新潟日報賞（科学部門）

表彰状

2019年5月通夜・告別式にて

